

中期戦略計画

2021年5月

岡山後楽園ロータリークラブ

はじめに

岡山後楽園ロータリークラブは、1989年（平成元年）1月26日岡山南ロータリークラブをスポンサーとして発足した。2019年（平成31年）には創立30年を迎え、4月に記念式典を盛大に行った。人間でいえば30年は一世代と言われ、次の世代に橋渡しをする時期である。

岡山後楽園ロータリークラブは、会員数50～60名の中規模のクラブとして、奉仕と親睦に活躍の輪を広げてきた。とりわけ、環境保全や国際貢献では他からも注目される特徴ある活動に取り組み、大きな成果を上げてきた。一昨年実施した「会員満足度アンケート調査」でも、多くの会員が満足し、会員であることに誇りを持っていることが明らかになった。しかし、日本経済の長期低迷や少子高齢化の進展のより、わがクラブも会員数の伸び悩みや会員の高齢化がみられ、今後の活動に不安の影を投げかけている。

わがクラブもこの節目の時に当たり、次の世代の発展へつなげていくため、これまでの歩みやアンケート調査から現状を認識し課題を探り、クラブの在り方と今後の方向性を示す中期戦略計画を立てるものである。

1 現状と課題

2019年10月~11月に全会員を対象に「会員満足度アンケート調査」を実施した。回答率は56%であった。以下この調査を中心に現状と課題を探る。

(1) 会員

① 会員数

会員49名で発足し、現在は50名である。会員数が最も多かったのは2001年度末の72人で、最近では50人台前半で推移している。会員増強に力を入れる必要がある。人口減少社会のなかで増強するためには、女性の入会がとりわけ重要である。わがクラブは長年女性に門戸を閉ざしてきた経緯があり、女性が入会したのは昨年度のことである。R Iの方針でも女性の活躍が期待されている。

② 平均年齢

会員の平均年齢は、設立時は47.5歳であったが、年々上昇し現在は65.4歳と高齢化が進んでいる。次代を担う30代~40代の青壮年の入会が喫緊の課題である。

③ 平均在職年数

会員の平均在籍年数は、現在17.7年となっている。10年未満39%、10~19年16%、20~29年12%、30年以上33%である。高齢化と相まって、在職年数の長期化が進んでいることがわかる。

(2) 会員としての意識

① 満足度

当クラブの会員であることに満足感を抱いている会員は93%にのぼり、ほとんどの会員が満足していることがわかる。一方、自分が他の会員から歓迎されているかについては、85%の会員が歓迎されていると思っている。

② 会員としてのメリット

会員であることにどのような価値を見出しているか聞いてみると、人脈づくりに82%、才能スキルを活かすに57%、地域への貢献に75%、世界への貢献に63%となっている。人と人とのつながりに高い評価をしていることがうかがえる。

③ 家族、友人の評価

会員であることに家族や友人はどのように評価していると思うかについては、家族も認めているは71%、友人も認めているは61%となっている。

④ 自分にとっての価値

会員はクラブにどの程度の価値を見出しているのか。会費を支払う価値があるとするものが79%、時間を費やす価値があるとするものが86%と高い価値を見出している。

(3) クラブ運営

① コミュニケーション

クラブ内でコミュニケーションが十分に取られているか、すなわち、風通しはどうか。会員に十分な連絡ができているという者が82%と高いが、クラブが会員の声に十分耳を傾けているかについては64%と下がり、そう思わない者が10%もいる。

会員の意見やアイデアを積極的に募っているかについても、同様な傾向がみられる。しかし、会員の意見やアイデアに基づいてクラブは運営されていると思う者が75%にのぼり、クラブ内のコミュニケーションはよく図られているといえる。

② 週報と会報

週報は、例会ごとに当日の例会の予定と前回の報告を掲載し、会員全員に配布している。はがきの大きさのため情報量に制約があり、A4判でいろんなニュースや記事を載せている他クラブの週報に比べ見劣り感は否めない。これまで何回も見直しが検討されたが、実現していない。

一方、会報は年4回の発行で、主にクラブが開催または参加したイベントの報告を掲載している。

クラブ運営で重要な役割を果たしているR Iやガバナー、理事会や委員会の活動を週報や会報でもっともっと取り上げ、会員に伝えていく必要がある。

③ 変化への対応

クラブの変化のスピードは適切であるかについては、適切であると答えた者は50%と低い。スピードが遅いというのか早いというのか回答では定かでないが、手続きや規定の更新では68%のものが適当と評価している。

④ 会員増強と新入会員の研修

当クラブの会員は、ここ数年50人台前半で推移している。ロータリークラブの中では中堅クラスのクラブである。会員数はクラブ運営にとって重要で、少ないと財政や活動に支障が生じる。どの程度が適切なのか決まったものはないが、わがクラブがロータリーのなかで、それなりの評価を得、役割を果たそうとするのであれば、現在の会員数をもう少し増やす必要があるだろう。将来ガバナーを輩出するほどのクラブを目指すのであれば、なおさらである。

毎年数名が入会するが、何人かが5年以内に退会していく。退会を防止することは、入会と同じくらい大事である。そのためには継続的研修が欠かせない。こまめで親身な対応が望まれる。

(4) 例会

① 出席

例会への出席はロータリアンの義務の一つである。今年度(2020-21)は80%前後の高い出席率を維持しているが、ここ5年の年間出席率を見てみると、2015年度70.2%、16年度72.4%、17年度69.0%、18年度71.6%、19年度71.9%と、70%前後のやや低い率で推移していた。常時80%以上を維持できるよう出席率の向上に努める必要がある。

② メイクアップ

例会に出席できない会員を救済する方法として、メイクアップという制度が設けられていて、これを活用した従来の出席率は80%程度で推移している。昨年度からメイクアップの算定方法が変更となり、年度が終了しないとその出席率がわからなくなってしまうため、メイクアップの利用頻度が低下するのではないかと懸念される。

③ 場所と時間

例会は岡山アークホテルで、原則として毎週木曜日12時30分~13時30分開催している。この場所と時間については90%以上の人が納得している。

④ 食 事

食事や飲み物も、「まあまあよい」を含めると89%の人がよいとしており、おおむね好評である。

⑤ プログラム

卓話等プログラムについては、主題、講演者とも「まあまあよい」を含め100%の人がよいと思っている。非常に高い評価である。

⑥ 交 流

93%の人が例会を交流の場と考えているものの、そこで職業のネットワークづくりを積極的にしたいと思っている人は少なく、53%が「まあまあ」と概して消極的である。

(5) 奉仕プロジェクト

① プロジェクトの数

ロータリー活動の核となるのが「奉仕」である。当クラブでも7つの奉仕関係委員会があり、それぞれ特徴ある活動を展開している。奉仕プロジェクト全体についてその数について聞いてみると、「ちょうどよい」とする者が86%と現状をよしとしている。

そのうち、社会奉仕プロジェクトの数について尋ねてみたら、82%がちょうどよいと思っているが、14%の者は多すぎるとしている。国際奉仕プロジェクトは75%がちょうどよい、25%が多すぎるとしている。

② 活 動

奉仕プロジェクトがよく運営されているかどうかについては、89%がよく運営されていると考えている。また、クラブはこの奉仕プロジェクトを通じて世界または地域に貢献しているかについては、82%が貢献していると答えている。

奉仕プロジェクトには比較的高い評価であるが、わがクラブの奉仕活動はそのほとんどが、他者が企画・主催するイベント・行事に参加するものであり、当クラブが主催するものはなく、当クラブの顔が見えない、応援ものばかりである。いわばわがクラブの看板となるプロジェクトが存在しないのが弱点と言えよう。〇〇と言

えば後楽園ロータリークラブの代名詞となるような奉仕プロジェクトが必要である。社会に存在感のあるプロジェクトがいるのではないだろうか。

③ 参 加

奉仕プロジェクトへの参加が自分にとって意義があるとする者が82%にのぼっている。多くに会員が意義を認識している。

(6) 会 費

① クラブ会費

会費がちょうどよいと思っている者は82%と、おおむね現状を是認している人が多いが、反面高すぎるとする人も14%いる。例会会費についても86%がちょうどよいとしている。

② スマイルボックス

スマイルボックスは93%がちょうどよいと考えている。低すぎる、高すぎるとする人がわずかながらいる。

③ クラブ賦課金・特別会費

賦課金・特別会費については89%がちょうどよい、7%が高いとしている。

④ 奉仕活動の募金

奉仕活動に求められる募金については、86%がちょうどよいと思っている。高すぎる、低すぎるとする人もわずかながらいる。

⑤ 財団寄付

ロータリー財団のために求められる寄付は、89%がちょうどよいとしている。

2 クラブ・地域の特徴

(1) 当クラブの長所と短所

クラブの長所	クラブの短所
・会員相互のまとまりがよい	・会員の高齢化が進んでいる。

<ul style="list-style-type: none"> ・ユニークな環境保全活動に取り組んでいる。 ・海外友好クラブが3クラブある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会員の職業分布に偏差がある。 ・女性会員が少ない ・特徴のある奉仕活動が少ない。
---	---

(2) 地域社会の特徴

地域社会に存在する機会	地域社会に存在する課題
歴史や伝統ある史跡、観光地がある。 晴れの国と言われ気候が温暖である。 医療福祉のレベルが高い。 桃・ぶどう等特徴ある果物が多い。	人口減少傾向にある。 重厚長大産業の比重が高い 教育水準が伸び悩んでいる。

3 目標期間

この計画は、創立40周年を迎える2029年（令和11年）を目標とする。

4 目指すべき将来像(ビジョン)

(1) テーマ

「地域に奉仕し多様性をもった常に進化するクラブを目指す」

(2) 基本目標

- ① 地域への奉仕：住みよい地域社会の実現に貢献する。
- ② 親睦と人づくり：会員を増やし、会員相互の友情を深める。
- ③ 国際交流：海外の友好クラブとの交流を活性化する。
- ④ 持続可能な運営：安定したクラブ運営の確立を目指す。

5 重点項目

ビジョンの実現に向けて、クラブが重点的の取り組むべき事項を定める。

(1) 地域への奉仕

年次目標	実行項目	達成期日	必要なリソース	担 当
クラブ独自の奉仕活動	既存事業の見直し、新規事業の検討と実施	2023年 6月	地域・会員ニーズの把握	奉仕プロジェクト委員会

(2) 人づくり

年次目標	実行項目	達成期日	必要なリソース	担 当
会員の増強	会員数を現在より10名増やす	2029年 6月	入会情報の把握	会員増強委員会 研修・育成委員会
女性の入会促進	女性会員を5名増やす	2025年 6月	入会情報の把握	会員増強委員会 研修・育成委員会
退会の防止	入会5年以内の退会者を出さない	2029年 6月	研修の充実	会員増強委員会 研修・育成委員会 スポンサー会員

(3) 親 睦

年次目標	実行項目	達成期日	必要なリソース	担 当
例会の再検討	開催時間、食事等あり方を再検討	2022年 6月	会員のニーズの把握	S A A プログラム委員会

出席率の向上	年平均 80%以上を目指す	2029 年 6 月	欠席者への働きかけ	出席委員会

(4) 国際交流

年次目標	実行項目	達成期日	必要なリソース	担 当
友好クラブとの交流	海外友好クラブとの交流の活性化	2025 年 6 月	キーパーソンとの連携	国際奉仕委員会

(5) 組織と運営

年次目標	実行項目	達成期日	必要なリソース	担 当
2690地区との連携	当クラブからガバナーを出す	2034 年 6 月	人材の育成	全委員会
クラブ広報の強化	週報、会報の在り方を見直す	2022 年 6 月	掲載内容、伝達の仕方	公共イメージ委員会 クラブ会報委員会
公共イメージの強化	ホームページによる情報の発信	2029 年 6 月	随時クラブ情報を提供	公共イメージ委員会

6 進捗の確認

戦略計画が実効性あるものとするために、ビジョン委員会において毎年目標の達成に向けた進捗状況を検証する。目標が達成できなかった場合は、その原因を明らかにし、計画の必要な見直しを行う。

(2021年5月13日 理事会決定)